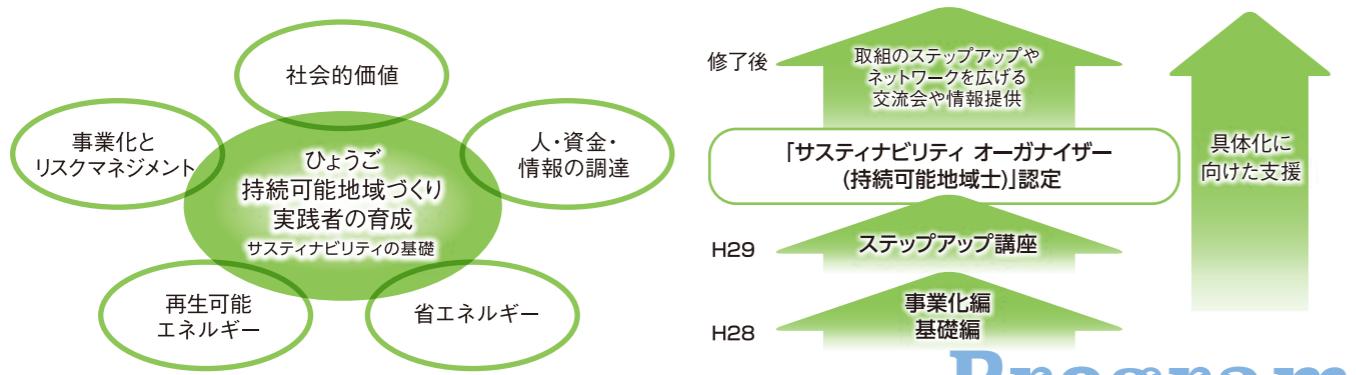


# Outline

## 講座概要

持続可能な地域づくりやエネルギー、事業化に関する幅広い知識の習得と事業化の組み立ての実践を行います。



## 主なプログラム

- 各回、座学(約1.5時間)とグループワーク(約1時間)を行います。座学では、それぞれのテーマにおける基礎知識や事業化の際によくある落とし穴、事例を通じた事業化のポイントなどについて講義いただきます。
- グループワークは、テーマ別に、事業計画(解決する地域課題の設定、事業、資金計画、スケジュール等)の組み立てを行います。
- 時間は14時半～17時(開講式は13時半～)

【開講式】 平成28年8月26日(金) 豊岡市民プラザ 市民活動室C・D	1.開講式 2.講座ガイダンス(事務局より) 3.持続可能な地域づくりの基礎 江崎 保男氏(兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科 研究科長・教授) 4.第1期生修了式・交流
9月2日(金) 豊岡市役所稽古堂	○低炭素社会を取り巻く国内外の最新動向 松尾 雄介氏 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)グリーン経済領域 副エリアリーダー /Japan-CLP事務局 エクゼクティブディレクター
9月8日(木) 豊岡市役所稽古堂	○地域のエネルギー利用の基本構造について知る 山口 容平氏 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 准教授
9月21日(水)※予定 豊岡市役所本庁舎2F 大会議室	○事業化の基礎知識と地方創生時代に求められる事業ポイント【一般公開】 大久保 和孝氏 新日本有限責任監査法人 経営専務理事/公認会計士・公認不正検査士
10月5日(水) 兵庫県立大学 「豊岡ジオ・コウノトリキャンパス」	○地域に役立つ事業とは?地域課題を定める 戸田 幸典氏 ひょうご持続可能地域づくり機構(HsO)事務局長/株式会社地域計画建築研究所(アルパック)主任
10月13日(木) 豊岡市役所稽古堂	○再生可能エネルギーの基礎と事業化(電気編) 竹尾 敬三氏 関西広域小水力協議会理事/アサンテ環境研究所代表 ○獣害に関する基礎知識と事業展開の可能性 坂田 宏志氏 株式会社野生鳥獣対策連携センター代表取締役
10月26日(水) 兵庫県立大学 「豊岡ジオ・コウノトリキャンパス」	○集落持続のための自然エネルギー事業と地域づくり 平野 彰秀氏 特定非営利活動法人地域再生機構副理事長
11月16日(水) 兵庫県立大学 「豊岡ジオ・コウノトリキャンパス」	○持続可能な山林形成を支える事業 能口 秀一氏 有限会社ウッズ 代表取締役 木材コーディネーター/NPO法人サウンドウッズ 副代表 京都府立林業大学校 客員教授/NPO法人丹波グリーンパートナー 代表理事
11月24日(木) 兵庫県立但馬文教府 第2研修室(予定)	○エネルギーの歴史 畑中 直樹氏 ひょうご持続可能地域づくり機構(HsO)代表理事 ○再生可能エネルギーの基礎と事業化(熱編) 谷渕 康次氏 NPO法人森と地域・ゼロエミッションサポート俱楽部理事/高山バイオマス研究所代表
12月	先進地視察と合宿 ※受講生の希望を考慮し設定
12月を予定 豊岡市内	○事業に伴う環境へのリスクについて多面的な視点から学ぶ 鷺見 健二氏 公益財団法人ひょうご環境創造協会 常務理事兼環境技術事業本部長 ○第1期生・第2期生事業計画ディスカッション
平成29年1月～2月 (計3回)	○事業計画を考える ○2月末には中間考査として、検討経過の発表と講師等による講評を実施
平成29年4月以降 (5コマ程度想定)	○フォローアップ ・平成28年度検討した企画をブラッシュアップします。 ・より専門的に深めたいテーマについては、講師をお招きして、座学の講座を提供します。

# Profile

## 講師プロフィール

現場での事業化支援経験等の実績がある全国のトップランナーの専門家の方々を講師にお迎えします。また、事業化編については、受講生の深く学びたいテーマを考慮し講師の選定を行います。

●松尾 雄介氏 公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)グリーン経済領域 副エリアリーダー/Japan-CLP事務局 エクゼクティブディレクター  
三和銀行(現三菱東京UFJ銀行)、環境投資顧問の株式会社グッドバンカーを経て2005年より現職。2005年ルンド大学(スウェーデン)産業環境経済研究所修士課程修了(環境政策学修士)。気候変動問題と企業の関わりについて一貫して研究活動を実施。現在は日本の先進企業で形成され、低炭素社会を目指すJapan-Climate Leaders' Partnershipの事務局を務める。  
受賞歴:2010年度 エネルギー・資源学会 第14回茅獎受賞、環境省 第9回、第11回NGO/NPO・企業環境政策提言 最優秀賞

●山口 容平氏 大阪大学大学院工学研究科環境・エネルギー工学専攻 准教授  
エネルギー需要の分析、シミュレーションの研究に従事。エネルギー需要の成り立ちや人の生活行動との関係に興味を持つ。2006年に大阪大学にて博士(工学)の学位を取得。2015年より現職。空気調和・衛生工学会等の学会賞受賞。

●大久保 和孝氏 新日本有限責任監査法人 経営専務理事/公認会計士・公認不正検査士  
1973年東京都生まれ、慶應義塾大学卒。政府における行政改革・規制改革に関与。政府関係での役職には、厚生労働省年金特別会計公共調達委員会委員長、文部科学省公的研究費の適正な管理・監査に関する有識者会議委員、長野県コンプライアンス担当参与など多数の政府、自治体の委員を歴任。また地域活性化支援としては、大阪府・長野県・宮崎県日南市・北海道夕張市・京都府京丹後市・宮城県気仙沼市・岩手県釜石市の参与等のアドバイザーの他、東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト運営委員会 委員に就任し、地域再生、地方活性化などを多数がける。その他、長野県農業大学校客員教授、早稲田大学・京都大学等の非常勤講師を歴任。

●戸田 幸典氏 ひょうご持続可能地域づくり機構(HsO)事務局長/株式会社地域計画建築研究所(アルパック)主任  
立命館大学卒。2004年から(特活)きょうとNPOセンターで市民活動の社会基盤作りやNPO支援等に従事。2009年8月(公財)京都地域創造基金の事務局長に就任(2011年から専務理事)。2015年3月の退任まで、市民活動を支える仕組みづくりと寄付文化醸成のための多様な事業展開、全国のコミュニティ財団の設立・運営支援や連携構築にも従事。ソーシャルビジネス等への助成金の審査・選考委員、地域貢献型メガソーラーの創出などをを行う非営利型株式会社PLUS SOCIAL取締役(2012年～2014年)も勤めた。現職では、コミュニティデザインを取り入れたまちづくりの支援、住民の力を引き出し地域課題解決のための事業・活動づくりをテーマにした講師等を務める。

●竹尾 敬三氏 関西広域小水力協議会理事/アサンテ環境研究所代表  
1955年大阪生れ。1975年大阪府立大学工業高等専門学校機械工学科を卒業し、1977年大阪府農業大学校(現大阪府農林技術センター)での研修終了後、国際協力事業団(現JICA)青年海外協力隊にてケニア国に派遣され、1981年の帰国まで稻作指導を行う。帰国後、JICAでの中期研修を終えたのち、株式会社丸島アクアシステムで小水力発電装置や水環境改善設備の開発を行うと共に、海外での水門等の設計及び現地設置指導等の業務に20年以上従事する。2005年にアサンテ環境研究所を設立し、代表となる。水景土、技術士(農業部門)、指定建設業管理技術者、1級土木施工監理技士、1種電気工事士等の資格を有する。

●坂田 宏志氏 株式会社野生鳥獣対策連携センター代表取締役  
野生動物による被害対策のための技術支援を行う会社を丹波市に設立し、被害現場での捕獲や防護の技術指導から、全国的な計画やシステム設計までを手がける。有害捕獲班の班員や中央環境審議会の専門委員を勤める。

●平野 彰秀氏 特定非営利活動法人地域再生機構副理事長  
1975年生まれ。岐阜市出身。東京大学工学部都市工学科卒、同大学院環境学修士。外資系経営コンサルティング会社等を経て、2008年春、岐阜ヘリテイア。中山間地域の地域づくり活動と、自然エネルギー(主に小水力発電・木質バイオマスボイラ)導入の活動を開始。2011年秋、人口270人の集落・岐阜県郡上市白鳥町石徹白(いとしろ)に移住。2014年、集落ほぼ全戸出資による石徹白農業用水農業協同組合の設立に携わり、集落住民が事業主体となった小水力発電事業を推進中。石徹白では、さまざまな取り組みにより、人口が増加に転じている。2011年、人間力大賞(公益社団法人 日本青年会議所)受賞。2015年より、内閣官房地域活性化伝道師。

●能口 秀一氏 有限会社ウッズ 代表取締役 木材コーディネーター/NPO法人サウンドウッズ 副代表/京都府立林業大学校客員教授/NPO法人丹波グリーンパートナー 代表理事  
1994年丹波市へ移住。2004年に森林資源の活用コーディネーターと建築設計を主業務とした有限会社ウッズを設立。2012～2014年には林野庁補助事業「木造公共建築物の設計からの技術支援事業」に木材コーディネーターとして全国各地の地域木材流通にかかる。2015年丹波市新エネルギービジョンの実現に向けて、NPO丹波グリーンパートナーの代表理事に就任し、地域コミュニティと共に薪の地域内循環による森林保全と地域づくりを実践中。

●谷渕 康次氏 NPO法人森と地域・ゼロエミッションサポート俱楽部理事/高山バイオマス研究所代表  
1972年三重生まれ、1996年に三重大学大学院生物資源研究科・生物生産工学修了。プラントメーカーを経て、高山バイオマス研究所を2005年に設立。JODCの木質バイオマスガス化専門家としてタイへ派遣、また地域での木質バイオマスボイラ導入にあたってのFS調査、簡易設計、事業者選定、監理支援等の事業化支援を行う。小型移動式クレーン、玉掛け、ガス溶断、乾燥設備作業主任者を取得。兵庫県下では、豊岡ベレットの立ち上げや豊岡市第1号ベレットボイラーの導入支援を行った。昨年度には、地元高山市にて木質バイオマスを利用したエネルギー販売会社「飛驒高山グリーンヒート合同会社」を有志と共に設立。

●鷺見 健二氏 公益財団法人ひょうご環境創造協会常務理事兼環境技術事業本部長  
1954年岐阜県生まれ。金沢大学卒、大阪府立大学大学院修士課程修了。1978年兵庫県入庁。大気汚染対策、水質汚濁対策、廃棄物対策、環境影響評価に従事。大気課長、環境整備課長、兵庫県環境センター長を経て、2014年から現職。環境影響評価条例を策定するとともに、県内の大規模開発整備事業に伴う環境アセスメントを多数審査。